

ライフスタイル

☎026-236-3143 ✉kurashi@shinmai.co.jp

究極の脱プラ「循環型」の生活



ホッとした話題 深い味わいで届けます

政府は来年7月、プラスチック製レジ袋の有料義務化の実施を目指しています。

県内でも、ワイシャツの形崩れを防ぐ資材を紙製にし、食品の包装を「可食性フィルム」に代えたりと、脱プラに取り組む企業が出てきているので、商品選択の際の参考になるでしょう。

6月に北佐久郡軽井沢町で開かれたG20のエネルギー・環境関係閣僚会合では木製ストローが使われました。最近シリコン製や金属製の「マイストロー」もさまざまなアームになっているようです。

手軽で便利な生活を支えるインターネット通販ですが、梱包材なども一緒にやってきますし、そもそも本当に必要な物か、クリックする前によく考えたいものです。

記者のブレイクタイム

あふれ返る物 必要な...

「あなたたちは子どもたちの未来を奪っている」。スウェーデン人の少女グレタさんのスピーチにときどきとした、持続可能な社会に向け脱プラ」という言葉が気になり始めた時、青山さん一家に出会った。

プラスチックごみによる海洋汚染が大きな問題となり、使い捨てプラスチックの使用を減らす「脱プラ」について、耳にすることが増えました。世界的にも、環境を守るため、レジ袋などプラスチック製品を規制する動きが広がっています。その「究極の形」といえるかもしれませんが、ほとんどごみを出さずに「循環型」の暮らしを送る一家が下高井郡野沢温泉村にいます。

楽しみながら「脱プラ」できる工夫はあるのでしょうか？ 11月中旬、青山雄飛さん(31)、由佳さん(33)と長男あるちゃん(1)が暮らし自宅を訪れ、脱プラ生活のヒントを探りました。(吉尾 杏子)

これが 循環型の暮らしだ!



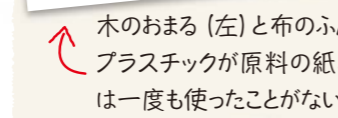
自給自足の食卓。パエリアとコマツナ、ケールなど5種類の野菜のあえもの。みそ汁のみそも畑の大豆から作った



木のおまる(左)と布のふんどし。プラスチックが原料の紙おむつは一度も使ったことがない



石臼や飯びつ、鉄鍋など台所用具は親戚、知人から譲り受けた古いの物を大切に使う



製麺機で遊ぶあるちゃん。プラ製のおもちゃはないが、生活用品もすべてが遊びになる



農薬や肥料を使わず、雑草を抜かない自然農法で米や麦、数十種類の作物を育てる。耕したりしないから手入れは楽だという



外壁に付けた1枚のソーラーパネルで電力を賄う



台所にプラスチック製品はほぼない



湧き水使い 電力は太陽光

かまど炊きのパエリアから香ばしい香りが漂う。食卓には湧き水で入れた野草茶や青菜の炒め物が並ぶ。「畑と一緒に取った大根だよ。雄飛さんがあるちゃんの口に漬物を入れると、あるちゃんもにっこり、笑顔に。

野沢温泉村で青山さん一家が暮らす木造3階建て住居。昼時、取れたての野菜で作った料理が食卓に上る。「煮炊きに使った薪は、友人や近所の人が持つてきてくれる廃材です」と雄飛さん。

青山家では、1枚のソーラーパネルで電力を賄い、水は真山の湧き水を使う。台所用具は譲り受けた年代物が中心。室内には「見上げて、プラスチック製品はほとんど洗い流さず、ごみ箱すらないという徹底ぶりだ。

分解されないプラスチックごみを含む海洋ごみは近年世界的な問題となり、海に流出するプラスチックは年間800万トン以上とされる。雄飛さん一家も最初は海産物ごみを捨てるのが、根本的な解決にならない」と気が付き、そこから「ごみを出さない暮らし」に少しずつ変えていった。今は物をほとんど買わない生活で、レジ袋をはじめプラスチック製品はほとんど買わない。

次の世代に つなげる物を

「現代は(使い捨ての)物であふれ返っているけれど、それが次の世代に繋がる物かどうかが、自分たちがいなくなる時、ごみだけを残していきたくない」と雄飛さんは話した。

プラごみ削減 信州でも動き

使い捨てのプラスチック製品などが大きな問題となっている海洋ごみ。釣り糸や漁網などの海で使う道具のほか、ペットボトルやレジ袋など、リサイクルや焼却処分されずに海に流れ込んだ日用品が多く含まれる。

こうしたプラスチックによる海洋汚染は地球規模で広がり、毎年推計800万トン以上のプラごみが

海へ流出。2050年には海洋中で魚の重量を超えるという試算もある。魚や海鳥が餌と間違えてのみ込んだり、絡まったりして命を落とすことも。波や紫外線にさらされて、おおもね5ミリ以下に砕かれた「マイクロプラスチック」は、食物連鎖により、人間も含めた生態系への影響が懸念されている。

政府は5月に「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」をまとめ、対策として、代替素材の開発、転換や、漁業者が引き揚げたプラごみの持ち帰り促進などを盛り込んだ。県は5月、海へと流れる河川の「上流」県としてプラごみの排出抑制などを促す「信州プラスチックスマート運動」をスタート。レジ袋削減や代替製品の製造など、プラ削減に協力する事業者に登録証を交付し、HPで紹介している。

意見や感想、取り上げてほしいテーマなどをお寄せください。宛先は〒380-8546 長野市南県町657 信濃毎日新聞文化部「暮らし深いきりカフェ」係。ファクス026・236・3194、メールkurashi@shinmai.co.jp

Advertisement for 'No-Kogiri-Yashi' (No-Kogiri-Yashi) featuring testimonials and a 3-month trial offer for 3,000 yen. Includes text like '朝から気分爽快 仕事も充実!!' and '自信が復活'.

Advertisement for 'Hiza no Uchiwa' (Hiza no Uchiwa) featuring 'Domestic Glucosamine' (国内産グルコサミン) with a 3-month trial offer for 3,000 yen. Includes an image of a woman and product packaging.

Small print text at the bottom of the page containing legal disclaimers and contact information.